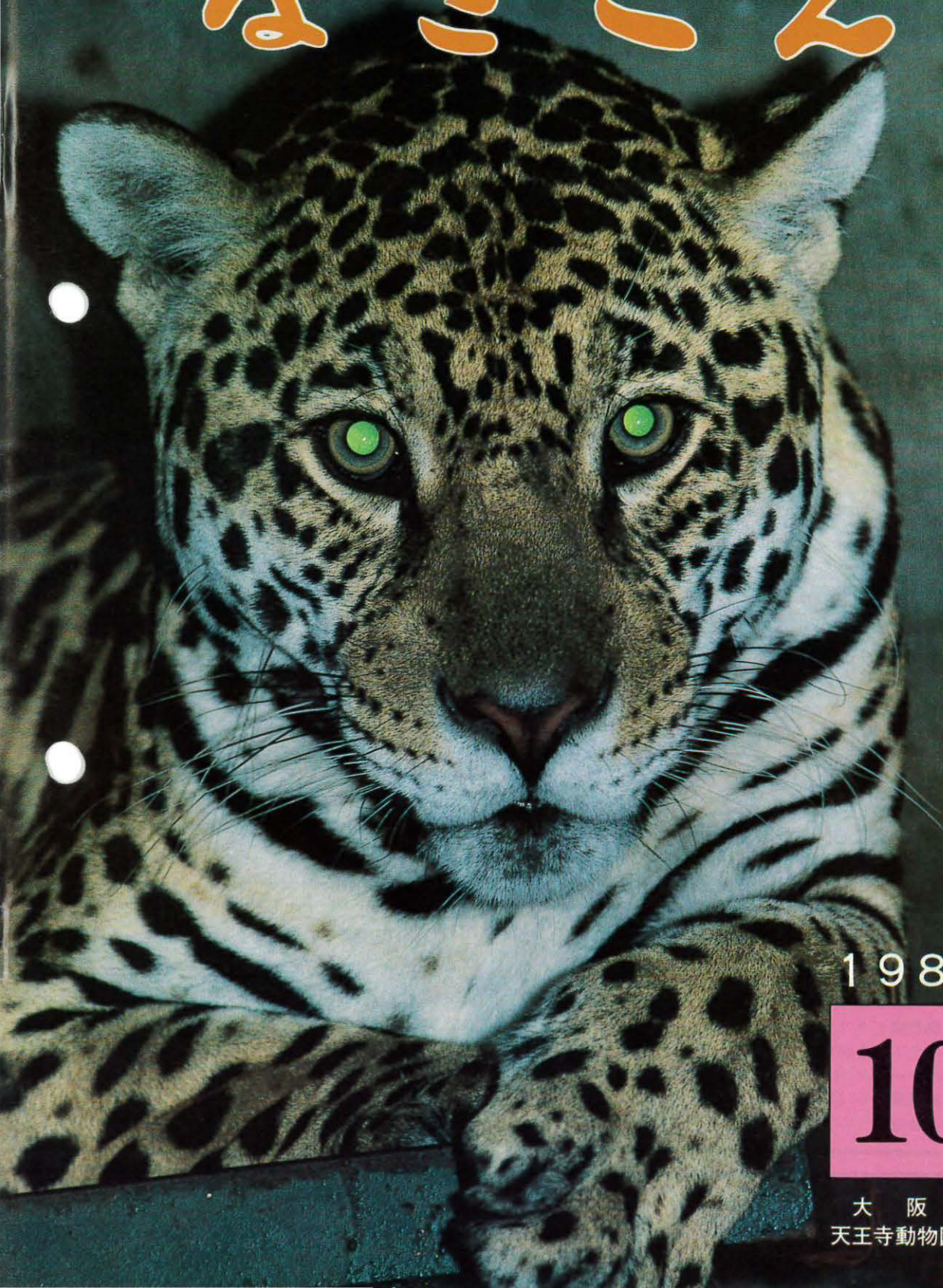




なきごえ



1986

10

大阪市
天王寺動物園協会



ケント・ギルバート

今年の春、天王寺動物園に行きましたが、丁度その頃は桜が満開だったので非常にきれいでしたね。

この時はキーウィ、タスマニアデビル、ヤブツカツクリの取材で行ったのですが、特にキーウィはなかなか

神経質な鳥であることが判りました。それは知りませんでしたね。夜行性だとは知っていましたが、あれだけ神経質だとは知りませんでした。ボク達取材陣のせいかお客さんがワイワイ騒いでいましたし、ライトも使えなかったので結局撮影はうまく行きませんでした。でも、ボクとしては非常に面白かったですね。キーウィという珍しい鳥を見たことなどなかったですから。

それからタスマニアデビルを見ました。動物園の方から色々話を聞かせていただいてたんですけど、このタスマニアデビルという動物はなかなか面白いものでしたね。ボク達が行った時は日光浴をされていてね、名前に似合わず、とてもひょうきんで大変可愛いらしかったです。それからヤブツカツクリと言うとても珍しい鳥も取材出来ました。

天王寺動物園は非常に広くて、良い所ですし、珍しい動物が沢山いるのですから、どんどん皆さんも見に行けば良いと思いますよ。

ボクの実家があるところにも、もちろん動物園があります。ホーグル動物園と言う名前です。小さな動物園ですけど代表的な動物はみなそろっています。ただ寒い所なので、冬の間は閉園してしまいますけどね。特に人気があるのは、子供のためのベッティング・ズーと言って、動物を触ることが出来るコーナ

ーです。そこには農家などで見られる動物が集められています。

ゾウとかキリンとかはもちろんそろっているのですが、キーウィのようにものすごく珍しい鳥は残念ながらありませんね。

今回の取材で沖縄から名古屋まで動物園をずっと回って見まして、本当に面白く珍しい動物を見ることが出来ました。本来、ボクはそれほど動物が好きというわけではなかったのですが、今までですと動物園へ行っても、何と言うか、軽く回ってみたいでしょ。でも取材するためには動物園の人に詳しくその動物の話を聞いて、そしてその動物の動きに合わせて取材しなければいけないわけですよ。つまり、もっと動物の心が判らなければいけないわけですよ。ですから今回の取材で動物の事が良く判るようになったというか、前より理解することができるようになった気がします。

例えば沖縄でイリオモテヤマネコを徹底的に取材したんですけど、この時は30分位カメラをまわしっぱなしにして、そのイリオモテヤマネコが上からおりて来て、池の中に潜って魚を捕まえて食べるシーンが撮れました。この時、やはり動物は警戒心が強いですから、すぐには来てくれないわけです。ですからボク達も我慢してイリオモテヤマネコがちゃんと安心して行動することが出来るようにその動物の心に合わせて取材しないとだめだったわけです。これはボクにとってとても良い経験になりましたね。

この秋から、日曜の夜8時のドラマに出演するのですけど、ボクの役は動物好きの男の役です。だからこれからはもっともっと動物と触れあう機会が増えると思うんですが、今回の経験がとても役に立つと思います。皆さん、是非このドラマを見て応援して下さい。(テレビタレント)

(ケント・ギルバート氏の談話を編集部で責任で整理しました。)

なきごえ10月号もくじ

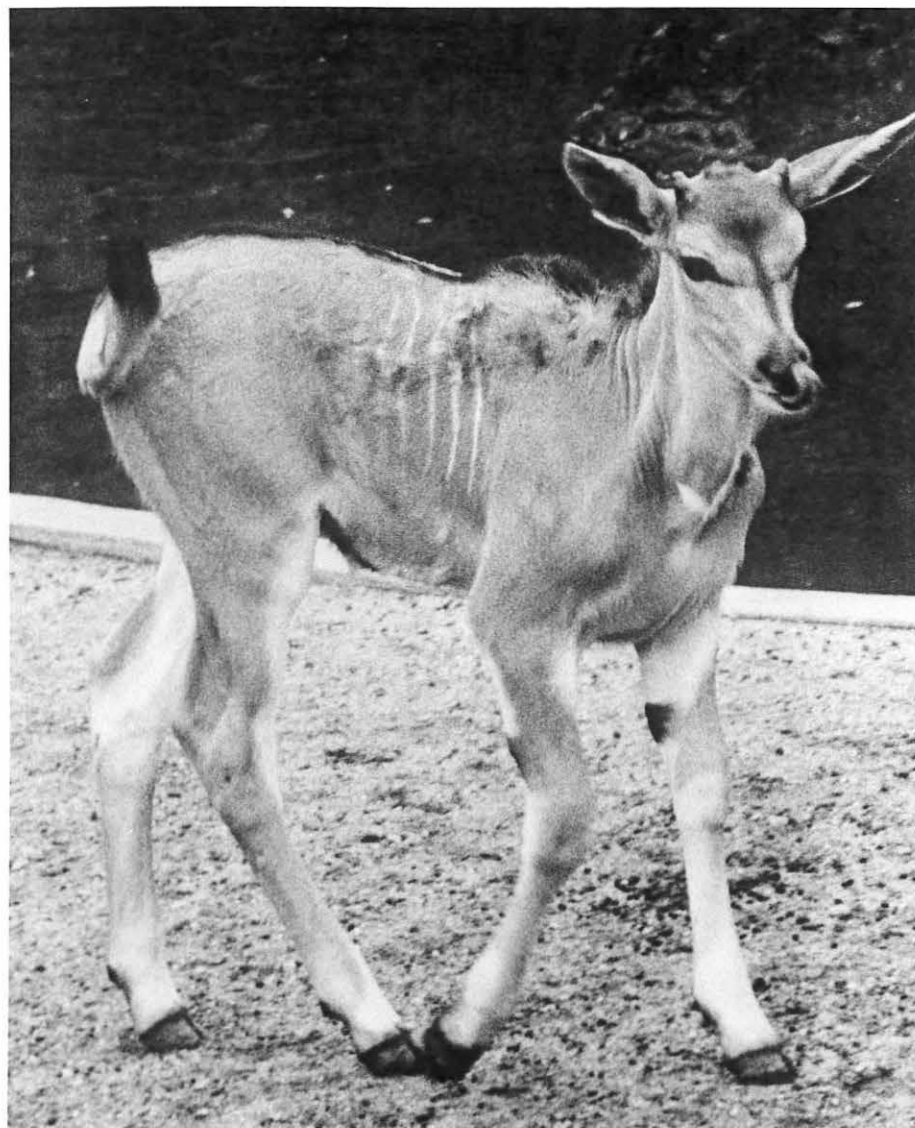
動物と私 2
“大きな赤ちゃんです” 3
動物園グラフ・動物園日記 4・5
ハチドリを飼育して 6・7
ニーハオ! 中国かた言、動物園訪問記 8・9
獣医室から ⑩ 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

“ジャガー” (Panthera onca)

北アメリカ南部、中央・南アメリカの森林に生息する中南米最大のネコ科の動物です。ヒョウによく似ていますが、体が大きくガッシリしていますし、斑点もヒョウの梅花状と異なり輪状をしています。

(撮影：野口秀高)



“大きな赤ちゃんです”

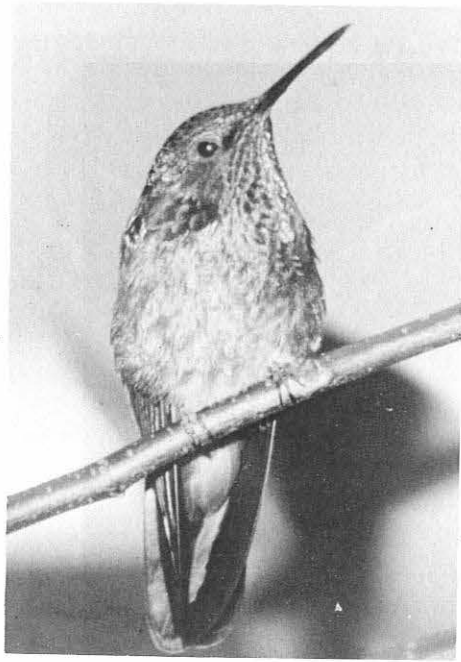
8月20日生まれのエランドの赤ちゃんです。オスの仔のせいか、独立心が強く、昼間は一頭で遊んでいることが多いようです。

(撮影：大野 尊信)

動物園グラフ

「これがハチドリだ！」

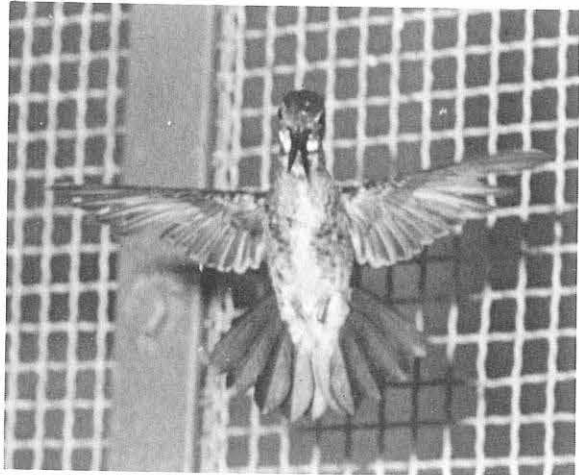
ハチドリが小鳥の家にお目見えして4ヵ月をすぎましたが、あまりのすばやい飛翔ぶりになかなかその姿を目に焼きつけることができません。この空飛ぶ宝石の一瞬の動きを今回は特集してみました。(撮影：宮下 実)



↑ 木の枝にとまっている時は嘴の細く長いのを除けば特に目立つことのない鳥です。



↑ 嘴よりさらに長い舌を使って蜜をのみます。



↑ 鳥では珍しいホバリング(停止飛行)ができます。

8・9月の動物園日記

- 8 / 8. ニホンジカが1頭生まれました。
- 8 / 9. ヤブツカツクリが1羽人工ふ化しました。
- 8 / 12. グラントシマウマの“レディー”がオスの子を1頭生まれました。
- 8 / 16. 7月21日保護したササゴイを放鳥しました。
- 8 / 17. エランドの“ミサキ”の出産が近いようです。レクチャールームにて映画会を開きました。
- 8 / 18. キーウイのオスの“ロンロン”と“ジュン”を試験的に同居させてみました。キーウイ、ハリモグラ、ハリネズミの体重

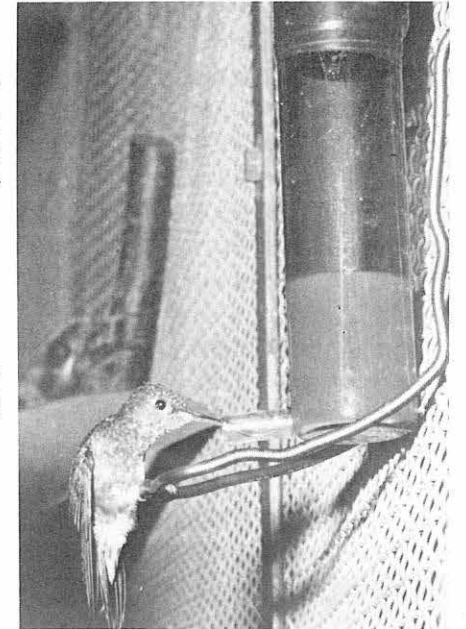
- 測定を行ないました。
- 8 / 20. エランドの“ミサキ”が出産しました。カヒメコンドルが自分の胸の筋肉を自分で噛みきり、傷と同時に出血も激しいので、すぐに治療し胸にカバーを付け入院させることにしました。
- 8 / 21. チンパンジーの“ミナミ” (メス) が風邪をひいたので投薬をはじめました。
- 8 / 23. ニホンジカにメスの仔が1頭生まれました。エランドの子(8/20生)を屋外運動場にはじめて出しました。夜行性動物舎の動物の検便を実施しました。
- 8 / 24. 第16回動物のお話とスライドの会「爬虫類



← 毎秒50~75回も動かす羽をカメラでその一瞬をとらえてみました。



飛翔しながらバイオネクターを飲んでいきます。↑



→ 給餌チューブに入っているバイオネクターを止り木にとまって飲んでいるところです。



- とカメレオンのお話」を開催しました。
- 8 / 25. キジ舎のキジ類の一斉検便を行ないました。
- 8 / 26. チンパンジーの“リッキー” (3歳オス) が風邪で熱を出したため、投薬し、安静にさせました。
- 8 / 28. ハクビシンが4頭生まれました。
- 8 / 31. トカラヤギが2頭生まれました。
- 9 / 1. オランウータンの子(4/27生まれ)は、本日より離乳をはじめました。
- 9 / 2. エランドのオス“タロー”とメスの“ミサキ”が交尾しました。
- 9 / 3. 本年生まれのカリフォルニアアシカの体重測定を行ないました。

- 9 / 4. ショウガラゴが2頭生まれました。キジ類にワクチンを接種しました。
- 9 / 5. タスマニアデビルのおス“クロベア”の右眼の横の皮膚がはれだしたのでさっそく治療を開始しました。
- 9 / 8. カムリウズラがキャピラリア症のため入院させることにしました。
- 9 / 9. 中国・上海動物園との第6次動物交流で、コンゴウインコ2番、キンカジュウ2番、セスジスカンク2番を上海動物園にプレゼントしました。また、大阪市動物及び技術交流班として飼育課長以下2名が上海に向かいました。

ハチドリを飼育して

§ はじめに

ハチドリは世界で最も小さい鳥で主に南北アメリカの熱帯地方に生育し、野生では花の蜜、花粉、虫等を食べて生活しています。当園では1986年5月10日に鶴見緑地「花の見本市」で展示されていたハチドリが、三菱電機大阪支社のご厚意により寄贈されましたが、かわいい姿とはうらはらに、なかなか闘争心の旺盛なこのハチドリの現在までの飼育経過をご紹介します。

§ ハチドリの種類と習性

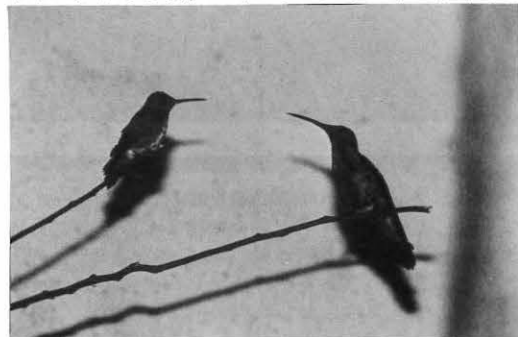
ハチドリの種類は世界で約320種いるといわれ、くちばしの形やからだの大きさも様々です。最大6g、全長22cmから最小2.8g、全長5cmと変化に富んでおり、最小のハチドリは鳥類の中でも最も小さいものです。ハチドリは特に羽毛の色が鮮やかで虹色をしています。これは羽毛の構造からくる色で光の反射、回折が原因とされています。習性は極めて闘争心が強く、色のきれいなハチドリほど、他の種類との雑居を好まないようです。闘争が始まるとほとんどの場合どちらかが死ぬまで続きます。

ハチドリの特徴の一つとしてはハチのように羽をはばたかせることがあげられますが、これは毎秒50~75回も羽を動かしており、もちろんこのような高回転の動きは我々の目にとらえることはできません。この羽のはばたきで、ハチドリは鳥としては珍しくホバリング（停止飛行）ができます。

また飛ぶスピードも大変早く、一説には時速140kmをこえるといわれています。

§ ハチドリの飼育経過

当園では1986年5月10日に8羽、6月26日に6羽、8月30日に3羽入園しました。入園した種類はアオミミハチドリ2羽、ユキハラエメラルドハチドリ2



ユキハラエメラルドハチドリ(左)とアオミミハチドリ羽、チャムネエメラルドハチドリ3羽、シロスジエメラルドハチドリ1羽、ミドリハチドリ2羽、テリノドエメラルドハチドリ6羽、ハイバラエメラルドハチドリ1羽の7種17羽で、このうち8羽が闘争の

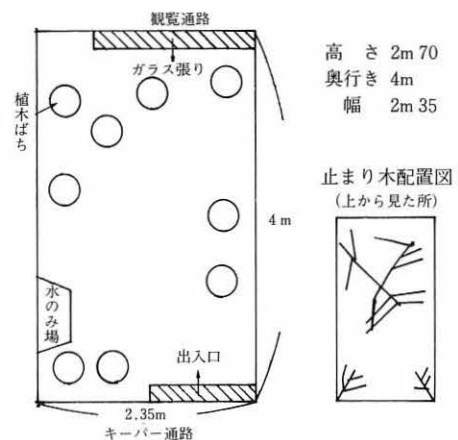
為に落鳥し、現在は3種9羽を飼育しています。



ハチドリ展示室(内景)

イスカンティアの観葉植物を計10コつるして緑をなるべく多くし、止まり木も部屋全体にはりめぐらせて弱い種類の逃げ場所を作っています。部屋の温度は入園当初は5月ということもあり、まだ暖房を入れたままにして最高温度よりは最低温度に重点を置いて最低25℃を保つようにしました。夏場に入ると、7月ごろから換気扇をまわして夏用の機械運転に切りかえました。最低温度は現在、26~27度に保たれています。

ハチドリ収容舎



§ ハチドリの餌と行動

ハチドリは野生では花粉や花の蜜等を食べている事から、従来飼育するのに困難な面があったのですが、最近になり西ドイツで「バイオネクター」と呼ばれる水に溶けばよいだけの粉末状の餌が作られ、動物園でも簡単に飼育されるようになってきました。この「バイオネクター」は花粉や花の蜜等とほぼ同

じ成分の餌で、当園ではこのネクターを1日2回、朝9時と夕方4時に与えています。ネクターは粉末のミルクみたいで、1回に与える量は、このネクター33.9gをぬるま湯200ccと水300ccの計500ccに溶かしてよく混ぜ合わせ、ハチドリ用給餌チューブ12本にほぼ同量で分け与えています。このチューブの位置は入園当初からほとんど変更せず、毎日の観察からどここの位置のチューブをよく飲むのかを調べていますが、大体、2週間程の間隔でよく飲むチューブが変わってくるように思います。また餌を入れた時のハチドリの行動ですが、これと言って大きな違いはないように思いますが、週1回の割合で与えている、ショウジョウバエを入れた時は、テリトリーがなくなったように全部のハチドリが飛び回る姿を見受けま



給餌チューブ

しかし、しばらくして落ち着くといつもの通りの自分のテリトリーにもどっていくようです。次に新しく入れたハチドリを同居させた時にはものすごい闘争本能を出し、少し弱いハチドリであれば、相手が死ぬまで追いまわし続けます。その為に弱ったハチドリは地面に落ちてしまい、そのほとんどが死んでしまいましたが、発見が早いと仮死状態で助ける事がで

ハチドリ1羽の摂取量

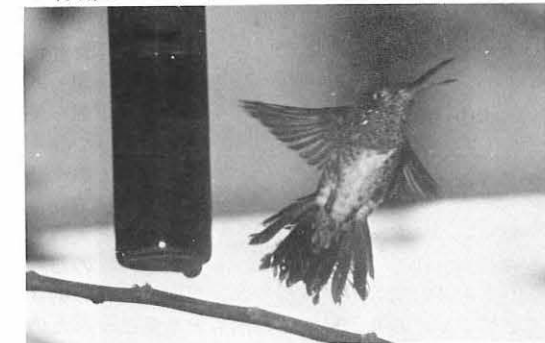
日時	摂取量	日時	摂取量
8/11	10 cc	8/14	12 cc
	8 cc	8/15	13 cc
8/12	16 cc	8/15	16 cc
	17 cc	8/16	14 cc
8/13	16 cc	8/16	11 cc
	18 cc		11 cc

(昭和61年8月11日~16日)

※各日も上段は前日の午後4時から当日の午前9時までの量
下段は当日の午前9時から午後4時までの量

きます。その場合には身体を暖めて、チューブの吸い口をくちばしにつけてやると、驚くほどのスピードでネクターを吸い、みるみるうちに回復していきます。8月9日にシロスジエメラルドハチドリが仮死状態で地面に落ちてしまいましたが、上記の方法で手当したところ回復しました。その後6日間、1羽だけでカゴに入れて展示を行ないましたが、その時に初めて、ハチドリ1羽の餌の摂取量を調べることができました。表に書きましたように、前の日の夕方4時から翌朝9時までの平均摂取量は13.5ccでその日の朝9時から夕方4時までが13.5ccで全く同じ結果がでました。つまり、ハチドリは1日に平均的に餌を摂取するという事がうかがえると思います。

ハチドリは名前の由来通りに、耳もとに飛んでくると本当にハチと似た羽音を出します。それと面白い行動として、朝にハチドリ舎全体に水をまいて



飛びまわるハチドリ

やると、ゴムの木の葉にたまった水滴の上で水浴びを盛んにします。また、入園して1週間目に夜の行動を観察しましたが、室内が暗くなって観覧通路だけの明りになると闘争する時も光のとどく範囲でしか動かず、給餌する時は不思議に昼の時のような激しいテリトリー意識を示さずに順番にネクターを飲む姿がみられました。

§ おわりに

当園のハチドリは9月5日現在で3種8羽を展示中ですが、今も闘争は続いており、飼育してみてハチドリは雑居飼育するのに非常にむずかしい鳥であると感じました。しかしその反面、展示という事を考えれば今の状態が見やすいこともあり、止むをえないと思いますが、これから、もっと観察を深めた上で、闘争によって弱ったハチドリの早期発見をする事によって落鳥をなくし、また長期飼育の記録を目ざしていきたいと思っています。それがいつかは繁殖へもつながってくれることでしょう。

(飼育課：西川徹二)



二一ハオ! 中国かた言、動物園訪問記

なきごえ22(10), 1986

なきごえ22(10), 1986

§ はじめに

今回の旅行の目的は、北京動物園と上海動物園の見学。そして今まで学んできた中国語が現地でどれくらい通用するか試してみることが主な目的でした。結果はといいますと、動物園見学は両動物園の方々のおかげで楽しいものとなりましたが、中国語会話のほうは勉強不足を痛切に感じました。動物園訪問はそれぞれ一日ずつあて上海と北京の自然博物館も見学しました。そのほかは移動と観光にあてました。全行程9日間で、往きは就航一年をむかえたばかりの“鑑真号”で大阪南港からまる二日間かけて上海に向かい、帰りは北京で大阪行きの飛行機(約3時間)に乗り込みました。訪問都市は上海と北京の両都市ですが、北京から少し離れた所にある万里の長城と十三陵だけは一日かけて見学しました。また、上海-北京間は夜行列車を利用しました。

私は動物園に就職した時から機会があれば、中国語は勉強したいと思っていました。まずは辞書を買って準備を整えていました。御存知のように大阪市と上海市は友好都市で、現在、天王寺動物園と上海動物園は動物交換や技術交流を積極的に行っております。このような状況の中で通訳を介さずに会話や読み書きができればもっと仕事はかどりと、両市と両動物園の友好はもちろんのこと、生身の人間同士のつきあひももっと深まり味なものになるであろうことは明らかです。

高校の時でした。私はこれからは中国とのつきあひが多くなるだろうと思いいラジオの中国語講座を少しかじったことがあります。それから10年、獣医師をしていて現実に中国語が必要になるうとは、だれが予測できたでしょう。

§ 万里の長城と中国の動物園

昔、秦の始皇帝が築きあげた万里の長城は、月から見える唯一の建造物として有名ですが、今回の旅行で、中国の人々の造るものの巨大さに目をみはる思いがしました。動物園も例外ではありません。上海動物園も北京動物園も私が今まで見た動物園では最大のものだったのです。前回の中国旅行では、昆明と桂林の動物園を見学しており、昆明動物園もかなり広がったのを記憶していますが、今回の旅行で約130ある中国の動物園のなかで、北京動物園が一番広く90ヘクタールもあることを知りました。また上海動物園でも70ヘクタールあるということです。ちなみに我が天王寺動物園は11ヘクタール。この差はあまりにも大きいようです。大きい北京や上海の動物園では動物舎はポツンポツンと間隔をもって配置され、その間は緑でもって埋められているため、とてもゆったりとしたのびのびとした気分になってくるのは事実です。また、動物たちの展示舎にも余裕のあるスペースがと



上海動物園では最大のものだったのです。

とられているため動物たちには好影響を与えているものとおもわれました。動物園の面積は広いに越したことはありませんが、短時間で見て回るには、動物舎が連なっていて面積の狭い当園のような動物園が疲れず便利なのはいうまでもありません。やはり当園は、せっか



動物園の面積は広いに越したことはありませんが、短時間で見て回るには、動物舎が連なっていて面積の狭い当園のような動物園が疲れず便利なのはいうまでもありません。

ち屋=日本人のための動物園なのでしょうか?

§ いつも盛況、北京動物園

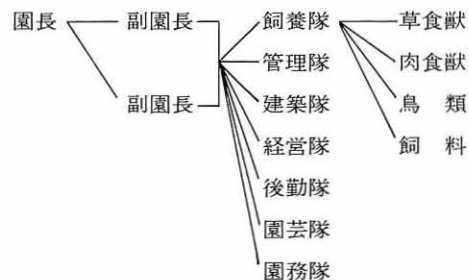
私達が訪れたとき、北京動物園はかなりの一般入園者が見学していました。ご案内いただいた葉(イエ)副園長に聞きましたところ、いつも2万人は入園しているとのこと。ついでに、こちらの職員数を尋ねましたところなんと聞いてビックリ、1200名。この内、200名が飼育関係の人々だそうです。ハ虫類や魚類などを含めて展示動物は620種類、3000点といえますから当園の2倍の種類で3倍の点数ということになります。当園の飼育係員は30人ですから、単純に点数に比例させて3倍してみても係員は90人ですむことになります。ちょっと職員が多すぎる感じがしたので、どうしてこんなに多いのか葉副園長にさらに聞いてみますとあっさり人間がたくさんいますからねとおっしゃいました。なんといいましても、中国は人口最多の国。機械化が十分でない分、人海作戦に頼っているように見うけられたのでした。



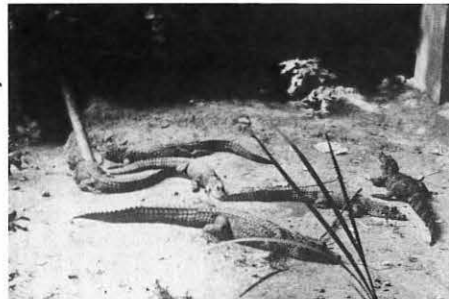
中国は人口最多の国。機械化が十分でない分、人海作戦に頼っているように見うけられたのでした。

§ 動物園の組織、ちょっと拝見

北京動物園を例にとって示しますと、次のようになります。



園長は1名、副園長は2名。そして各隊には隊長がいて、その下には副隊長がいます。北京動物園の飼養隊ではこの副隊長が4名いるそうですが、それぞれ草食獣、肉食獣、鳥類、それに飼料を担当しているという

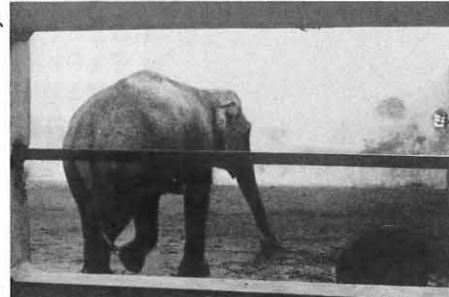


ことで。当園では飼育課の飼育係と管理課の管理係だけしかありませんが、北京動物園では7隊あって仕事の細分化がすすんでいるようです。

万里の長城や十三陵を案内していただいた王(ワン)副隊長は、草食獣のオーソリティで、北京動物園に勤続26年のベテラン。いままでに草食獣70種を手がけてこられたということでした。当園は昨年、三重県のカモシカセンターにこられた折に見学されたとのお褒めの言葉をいただきました。

§ 繁殖良好、中国の動物園

今回は見学しませんが北京・上海両動物園はともに動物園から少し離れた場所に繁殖場を有しています。そこでは中国第一級保護動物がキンシコウやゴールデンターキンを筆頭に、繁殖を目的として飼育されています。中国国内からまだ出たことがないといわれるターキンは両園ともに繁殖は順調のようで、その餌について王副隊長にお聞きしたところ、ターキンは木の葉(樹葉)が主食で、夏は桑の葉、冬はコナラの類の木の葉を主に与え、それとともに多種類の草を添えているとのことでした。



中国に分布する雲南ゾウは飼育展示されているに

§ おわりに
今回の中国旅行は、ツアーなどではなく、全く自由な旅行で、往きと帰りの交通のみ予約していたのみで、宿泊や交通機関などは全て現地で処理しなければなりません。今回の旅行では、2回ドキッとしたことがありました。1つは上海で北京行きの列車の切符を買おうとしたとき、1週間先まで切符が売り切れていたこと。これは国際旅行社で切符を買ったので解決しました。もう1つは、上海で、外国人のドロボーに上海動物園でいただいたおみやげを同行の人がリュックからかすめとられたことです。

まあ、いろいろありましたが、無事帰ってこられました。各々の動物園では、連絡もしてあったせいか園長じきじきの歓待を受けることができ大変幸運だったと思います。また再び中国に行ける日を折って、それまで再見。

謝謝! 中国的朋友!

もかかわらず、正確な頭数は聞き漏らしてしまいましたが(北京は確か3頭繁殖、上海は数回繁殖)両園ともに繁殖はうまくいっており、上海動物園では今年5月23日に生れた小象が母親にぴったりとくっついてチョコチョコ動き回っている姿が印象的でした。またその隣の部屋には昨年1月生れた小象もあり、日本の動物園では、お目にかかれない光景でした。北京動物園では象のボール遊びのショーを見ることができ、調教はなされているようでした。

2年前まで当園にもいましたヨウスコウワニは、中国の揚子江にだけ生息するアリゲーターですが、今、中国の動物園では上海だけが繁殖しており、1980年からフ化が続いているということで、園内の屋外展示場では去年フ化したかわいいワニたちをみることができました。また、今現在も、10個を人工で、残り10個を自然ふ化させているところということでした。中国国内の他の園に繁殖個体をあげていることなので、当園にもぜひお分けいただきたいとお願いましたが、政治が介入する第一級の動物らしく、返事は返ってきませんでした。

§ モウコガゼル(黄羊)はどこにいる

1974年北京動物園からいただいたモウコガゼル(中国名=黄羊:ホアンヤーン)は、当園にはもういません。

現在いる雌2頭は、それらの子供たちです。ここで雄が欲し



いところですが、北京にも上海にもいませんでした。私は上海までの船旅の途中、耳寄りな話を内モンゴル大学の教授から聞くことができました。現在、内モンゴルには野生のモウコガゼルがたくさん生息し、軍隊が機関銃で撃ち殺して食料にしており、この教授自身もモウコガゼルの肉を食べた経験があるということでした。また、小さいながら、内モンゴル動物園にも展示されているとのことでした。

(飼育課:森本 委利)

ただ今リハビリテーション中!

3頭のトラが放飼場で飼育されていますが、オスがペーター、メスがミン、ノンと愛称がついています。ペーターは九州自然動物公園で生まれたものですが、ミンとノンは昭和53年5月16日に天王寺動物園で生まれたものです。ミンとノン、そしてもう1頭ルンという3頭姉妹で生まれたのですが、母親がどういふものか途中で育児を放棄してしまったため、生後33日目から動物病院に引き取りました。もう離乳近くなってからの人工哺育でしたが、我々にもなじんでくれ、生後4ヵ月まで動物病院で育てました。この後、トラ舎で展示しましたが、ミルクをもらったのを覚えているのか、我々が行くと3頭共身をすり寄せて甘えてくれました。このミン、ノン、ルンは特に私が名付け親になったこともあって、彼らとの絆はなかなか絶ちがたい思いでした。

月日が流れ、ルンはよその動物園に嫁入りし、ミンとノンにはペーターという立派なムコ養子ももらいましたが、2頭ともいまだに子室に恵まれせん。子供時代はあれほど我々に甘えていたミンもノンも、成長するにつれていつしか甘えた姿勢を示さなくなりました。

今年の7月27日朝、ミンが起立できないで収容室で横たわっているのが発見されました。昨夕は餌も全部食べ、なんの異常も示さなかったのに、一晩で四肢が完全に麻痺してしまいました。ネコ科の動物でこのような突然の起立不能、四肢の麻痺を示す病気としては椎間板ヘルニアや大動脈血栓塞栓症などが疑われます。横たわったままでも攻撃しようとする力は残っており、とても手がだせません。やむなく麻酔し、体の諸部を触診するとともに血液検査を行いました。また麻酔が効いている間を利用してリンゲル液や栄養剤など4000ccを点滴しました。原因も病名も不明のまま10日たちました。この間に3回麻酔して血液検査を行いました。特に異常は認め



奥がノン、手前がミン

られませんでした。餌は全く食べないため、点滴を毎日1000~3000cc行いましたが、横たわったままのため、褥創(床ずれ)も日ごとに広がり始めました。最初は四肢とも麻痺していると思われたのですが、左半身はかなり筋力があり、右半身、特に右前肢の麻痺が著明でした。なにか人間の脳卒中を思わせるような症状で、治療にもその改善をめざす薬剤を用い始めました。

連日の注射が効いたのか、発病から12日目、徐々に元気をとり戻してきました。ところが8月12日、今度はノンが同様に歩けなくなってしまいました。夕方、屋内に収容する際、歩くことができなくなっているのを発見したもので、普通なら数秒で歩いてこれる距離を、はいつくばりながら15分かかって入室しました。前肢は全く筋無力の状態であり、後肢もヨロヨロの状態でした。

2頭のトラは屋内に収容されたまま、毎日朝3本、夕3本の注射が続けられました。そして8月16日から2頭そろってやっと餌を食べ始めました。8月22日には横たわったままだったミンが座った姿勢をとれるようになり、8月28日からは

注射をやめて餌の馬肉の中に薬をまぜることにしました。回復ぐあいを確めるため、8月30日、2頭を屋外の放飼場に出しました。ノンは時折下半身がふらつくのを除けば歩行はスムーズです。ミンは右前肢の麻痺はあるものの、四肢でゆっくりと歩きました。

毎日午前中は2頭のリハビリテーションの時間です。放飼場で2頭は行きつ戻りつ、時には水の中で泳いだりと回復のための運動に余念がありません。完治までもうすぐでしょう。

それにしても連日の注射のために我々獣医師はひどくきらわれ、我々の顔を見るたびにミンとノンが唸り声をあげるようになってしまったのは残念なことです。(飼育課:宮下 実)

動物園ニュース

§ また誕生!! グラントシマウマの赤ちゃん

7月28日にグラントシマウマのメスの赤ちゃんが生まれたことはすでにお伝えしましたが、8月12日に今度はオスの赤ちゃんが生まれました。母親の“レディー”は、1973年7月7日生まれて、今回が1982年、1984年に次いで3回目の出産です。これで当園のグラントシマウマは6頭になりました。



2頭の赤ちゃんシマウマは、共に元気ですくすく成長しており、かわいい姿は人気を集めています。

§ ショウガラコの誕生

9月4日、ショウガラコの赤ちゃんが生まれました。4日の昼すぎに巣穴から尾が出ているのが観察され、当初1頭と思われていましたが、翌日双児であることを確認しました。出産したメスは、昨年10月にも1仔出産しており、今回が2度目の出産です。



ショウガラゴは1産2仔が普通でまれに3頭生むといわれており、今回は平均的な産児数といえるでしょう。

生後2日目から時々、巣穴から出ているところが見られています。

§ 出産ラッシュは続く

ラマの赤ちゃんが8月6日に生まれました。今回出産した“ロコ”は4回目のおめでたです。今まで当園で生まれたラマの体色は白が主体のものが多かったのですが、今回生まれた赤ちゃんは、ほとんどこげ茶色の毛におおわれています。



8月20日の朝、エランドの赤ちゃんが生まれました。出生後3日目に初めて放飼しましたが、父親とのトラブルもなく、無事に成長しています。

8月28日、ハクビシンの赤ちゃんが4頭生まれま

現在の飼育動物数

Table with 4 columns: 種類 (Species), 頭数 (Number of individuals), 種数 (Number of species), 飼育点数 (Number of points). Rows include 哺乳類 (Mammals), 鳥類 (Birds), 爬虫類 (Reptiles), and a total (計).



た。1頭は数日後に死亡しましたが、この母親は昨年6月にも出産しており、残る3頭は無事に育つこと

でしょう。

§ 動物愛護標語、銀賞受賞

7月15日から7月30日まで、来園者の皆様から動物愛護標語を募集しましたが、応募作品の中から5点を選び、(社)日本動物園水族館協会主催の中央審査に送付しました。その結果、当園から送付した愛媛県松山市の岡田真由子ちゃん5才の標語が銀賞に輝きました。

銀賞受賞標語「名前と顔とは大ちがいとっても可愛いタスマニアデビル」

§ 夏季、園内整備工事

今年も、夏季の園内整備工事が8月から9月にかけて行なわれました。動物舎ではゾウ舎の塗装工事を行ない、たいへん美しくなりました。水禽放養舎では、昨年夏に前面金網をステンレス溶接金網に取り替えたところたいへん見やすくなり好評でしたので、今年は側面の金網も取り替えました。また、爬虫類舎は今まで、外部の光がガラスに反射し見にくかったため、光をさえぎる遮光板を設置し、たいへん見やすくなりました。

また、フラミンゴ舎北にあった便所は老朽化が著しかったため建て替えることになり、現在工事が進行中です。10月中旬にはたいへんモダンな形の新しい便所が完成しますのでご利用下さい。

§ 秋の動物園まつり開催

秋の動物園まつりが、10月19日から11月9日までの日曜、祝日5日間開催されます。イベントとしてステージでは午前中に大阪動物園ボランティアズのメンバーによる動物クイズと紙芝居、午後は幼稚園児の遊戯や手品、紙芝居などが行われます。

また、獣医師による無料動物相談などもありますので、是非ご来園ください。

◎ お知らせ

動物のお話とスライドの会

- 10月19日(日) キリンのお話
11月16日(日) サルの飼育と人工哺育の話
12月7日(日) 動物園の一年あれこれ
時間:午後1時~2時
於:北園レクチャールーム

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3日曜日です。12月までの休園日は下記のとおりです。
10月20日(月)、11月17日(月)、12月15日(月)、
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。



ゆとり満喫、信頼のカード。

ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード (キップス) **KIPS**

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店

お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階 ●上本町店10階 ●東大阪店本館 ●奈良店4階 ●西京都店1階
(京都ファミリー)

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

●オールカラー

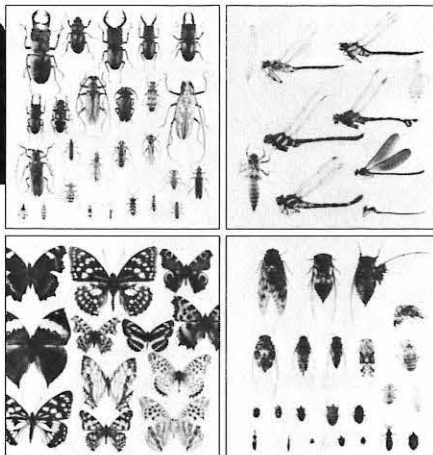
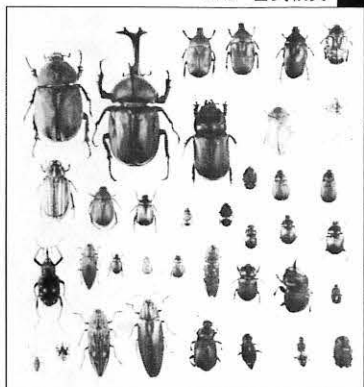
むし

くらしとかいかた

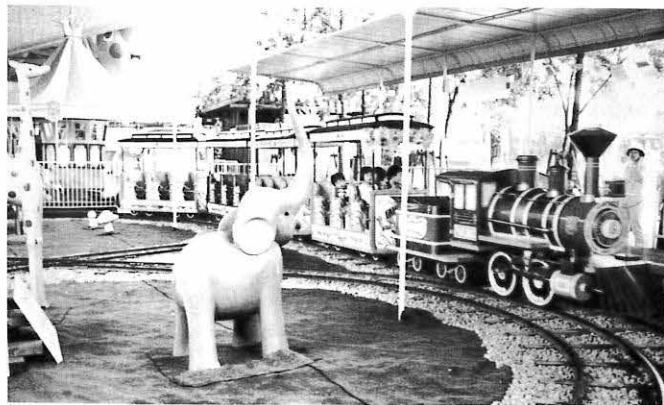
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

580円

ひかりのくに株式会社
〒543 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく



フジカラー SUPER HR

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に

天王寺動物園
ガイドブック

のご購読をおすすめします。
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶白山町6-74 ☎(06)771-0201

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

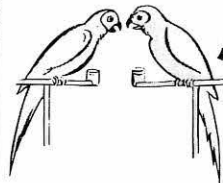
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史
欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす |
| 第三章 猫の報恩談
蛇を咬んだり、金を運んだりする | 第四章 野性猫の存在
裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡米など |
| 第五章 猫の奇話(上)
長命、多産、三毛猫などの形態の奇話 | 第六章 猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)
マタタビを媚薬とする奇妙な習性など | 第八章 益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究 |

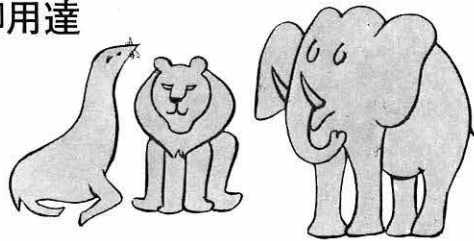
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

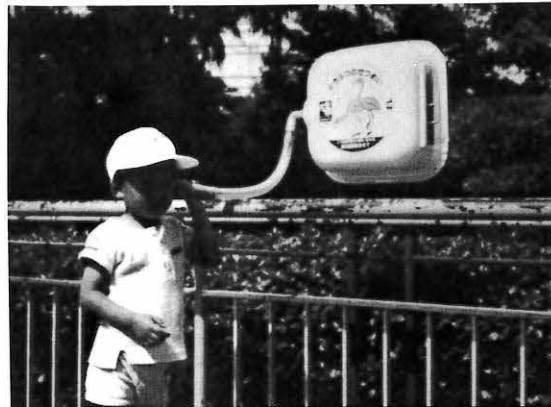
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

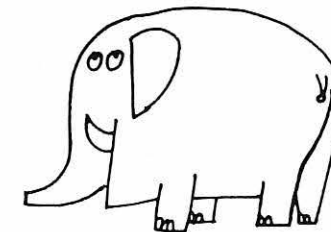
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内

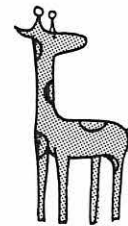


南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますので説明に伺いました際は、よろしく願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和61年10月10日発行(毎月1回10日発行) 第22巻 第10号 (通巻254号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

(土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/前田豊彦/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭/森本委利)
(大野尊信/山下春之/農本武志/野口秀高/早川 篤/荻野幸司/堀 弘/大川光雄)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823